

活動実績報告書

林野庁長官 殿

令和 7 年 9 月 5 日

登録番号 20170849

氏 名 大政 康史

森林総合監理士登録・公開の運用について（平成 26 年 4 月 1 日付け 25 林整研第 268 号林野庁長官通知）第 3 の 2 の規定に基づき下記の期間における活動実績を報告します。

令和 5 年 4 月 ～ 令和 7 年 6 月

（活動の内容）

1. （独研）森林総合研究所での勤務（総括審議役）の際、以下のとおり講演を行った。

○「令和 5 年度大分県森林防災ヘルパー研修」（令和 5 年 6 月 20 日開催）において、「森林の機能を生かした防災・減災対策について」及び「森林・林業・木材産業について～森林研究・整備機構からの景色～」のタイトルで、大分県内で活躍する森林防災ヘルパー（市町村職員・関連業者等）約 100 名に対して、森林防災ヘルパーとして必要な斜面崩壊の知識や、森林行政に携わる者向けの基礎的な知識について、森林総合監理士及び技術士（森林及び総監）として講演した。

2. 東北森林管理局での勤務（局長）の際、以下のとおり講演・講義を行った。

○「秋田県素材生産流通協同組合」の総会（令和 6 年 5 月 24 日開催）において、「災害大国日本における治山事業～森林の機能を活かした防災対策～」のタイトルで、秋田県内の素材生産業者など約 70 名に対して、森林の公益的機能や保安林制度・治山事業、シカ被害と人間の捕獲圧との関係などについて、森林総合監理士及び技術士（森林及び総監）として講演した。

○「宮城県林業経営者協会」の総会（令和 6 年 6 月 27 日開催）において、「東北における森林・林業・木材産業の今後を考える」のタイトルで、宮城県で林業経営を行っている森林所有者や森林組合職員約 40 名に対して、特定苗木を使ったこれからの山づくりやシカ捕獲の最新の取り組みなどを、九州地方や近畿地方での事例も踏まえながら、森林総合監理士及び技術士（森林及び総監）として講演した。

○秋田県立大学の学生（生物資源科学部生物環境科学科）約 50 名に対して、「災害大国日本における森林の機能を活かした防災減災対策～農林水産省林野庁の取り組み～」のタイトルで、令和 6 年 7 月 17 日に、日本の国土の特徴と森林の歴史、森林の公益的機能と治山事業などについて、局長及び森林総合監理士並びに技術士（森林及び総監）として講義を行った。

○秋田県能代市を盛り上げようと活動している市民団体「能代市おもしろ塾」主催の講演会において、「東北の森林・林業・木材産業の今後を考える～林野行政マンから見た景色～」というタイトルで、令和 6 年 8 月 23 日に一般市民の方々約 60 名に対して、世界の森林と日本、秋田県での森林づくり、最新の木材利用と木造建築、シカ被害による山腹崩壊などについて、森林総合監理士及び技術士（森林及び総監）として講演を行った。なお、講演会での他の講演者は以下のとおりである。

「秋田の未来に向けた秋田県立大学・木材高度加工研究所の挑戦」

高田克彦（秋田県立大学木材高度加工研究所 所長）

○「秋田県林材業団体連絡協議会」の総会（令和6年8月30日開催）において、「東北の森林・林業・木材産業の今後を考えてみる①」というタイトルで、秋田県内で林業（造林等）・素材生産業・木材産業（製材業）などに携わっている方々約80名に対して、世界の森林の中での日本の立ち位置、秋田での山づくりと品種、木材（丸太）マーケットの変化と国産材シフト、（同規模の）九州と比較した場合の東北の地域特性、東北での（スギ）品種改良と次代検定林などについて、森林総合監理士及び技術士（森林及び総監）として講演した。

○「青森森林政懇談会」（令和6年12月17日開催）において、「東北の森林・林業・木材産業の今後を考えてみる①」というタイトルで、青森県内で林業（造林や林道工事等）・素材生産業（伐採や運材等）・木材産業（製材業）などに携わっている方々や県庁職員約90名に対して、世界の森林の中での日本の立ち位置、スギ品種改良の現状（成長と強度は両立する）、木材（丸太）マーケットの変化と国産材シフト、東北の林業の特徴と今後の方向性、ヒバ林の今後などについて、森林総合監理士及び技術士（森林及び総監）として講演した。

○「第75回日本木材学会大会（仙台大会）公開シンポジウム」（令和7年3月20日開催）において、「東北国有林の現状と役割」というタイトルで、日本木材学会参加者及び一般市民約200名に対して、世界と日本の森林、木材は良い資材、東北の森林の役割、「木の文化日本」の再興などについて、局長及び森林総合監理士並びに技術士（森林及び総監）として講演した。なお、シンポジウムでの他の講演者は、以下のとおりである。

「仙台の杜3万年の木材利用史」鈴木三郎（東北大学名誉教授）

「合板（ごうはん）からみる東北の木材産業」洪沢龍也（森林総合研究所研究ディレクター）

「東北の木材利用と私たちの暮らし」足立幸司（秋田県立大学木材高度加工研究所教授）

○秋田県立秋田北鷹高等学校の学生（緑地環境科森林環境コース1～3年生）約60名に対して、「森林・林業・木材産業の最近の動き」のタイトルで、令和7年6月20日に、世界の中での日本の森林の特徴、木材の特性、東北の森林が果たす重要な役割、近くの森林からの木材利用の重要性、街の木質化（木造ビルの建築推進）、木材サービス産業、リモコン伐倒機械などについて、局長及び森林総合監理士並びに技術士（森林及び総監）として講義を行った。

【講演状況の参考動画】 #大政康史 #東大TV で検索

「森林における放射性物質対策と林業再生に向けた取組み」大政 康史

（2014年度開講 放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会 第9回報告会）

https://tv.he.u-tokyo.ac.jp/lecture_4468/

【利用目的】

私は活動実績報告書（以下「報告書」という。）に記載し提出する個人情報について、以下に規定されている利用目的について確認し、同意します。

←同意した場合は✓を記入して下さい。

- 1 報告書は、林野庁ホームページに公開し、森林総合監理士の活動実績を紹介するために利用するものとする。
- 2 1のうち、市町村及び地域の林業関係者への典型的な技術的支援の事例については、事例紹介の資料として公開するために利用するものとする。

【注意事項】

- 1 活動実績は、直近の過去3年間に、森林総合監理士としての活動に関連していると考えられる、又は森林総合監理士として取り組んだ具体的な活動内容を記載してください。
- 2 報告書は、A4としてください。
- 3 この報告書は、林野庁ホームページに掲載しますので、見やすさ読みやすさ、個人の特定等、公開に差し障りのある表現にもご配慮ください。
- 4 利用目的に☑が記されていない届出書については無効とし、廃棄します。